

構内運転分科結成委ちる

構内運転分科会は六月二三日、動力車会館において結成委員会を開催し、動労千葉の一翼を担い分科全員が一丸となって闘い抜いてゆく決意をうち固めた。乗務員分科会はずでに結成委をかちとり、事務(6/28)検査(6/30)分科をはじめとする全分科および未結成三支部の結成委員会・大会も続々と開催される予定となっており、動労千葉の組織体制は着々と前進している。

動労千葉の発展に全力を尽す 堀越会長あいさつ

委員会は島田事務長の司会により一〇時三〇分より開催され、堀越会長から「組織破壊攻撃に対し構内運転分科は全力をあげて闘ってきた。今日の結成委員会は今後も動労千葉の発展のために全力で闘い抜く決意の表明である」というあいさつが表明された。そして、地本・西森副委員長のあいさつを受けた後、執行部よりスローガン、活動方針案、会計報告、予算案、「規約」の順に提案が行われ、昼食休憩の後熱心な討論を展開し、方針その他を執行部提案通り確認し終了した。

なお、執行体制については次期定期委員会まで堀越会長以下の現体制でやってみることが確認された。

組織破壊攻撃をはね返し、分科 独自要求を前進させよう!

討論は主にこの間の組織破壊攻撃と分科の独自要求の実現を中心とする今後の組織運営に集中し

「本部」暴力集団の破壊攻撃については、暴力、動労千葉の財政基盤、公労委の認知と対当局交渉の問題、組合費や「会館」について「本部」が裁判に訴えるという問題等について意見が出され、本人の留守中に「本部」につかないと四月から給料を払わない」というデータ的な「家庭オルグ」が行われたことなどが報告され、「本部」のウソにウソを積み重ねた組織攻撃の実態と破産の状況が解明され、動労千葉の着実な前進についての確信が深められていった。

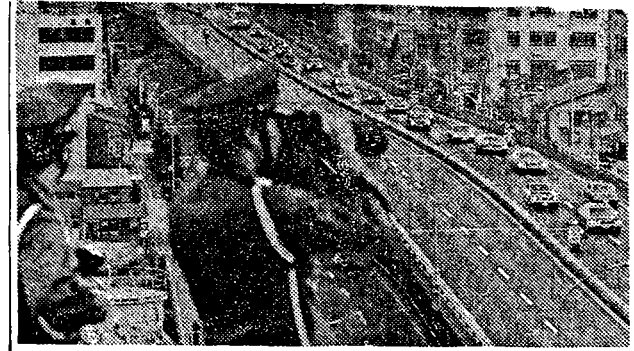
分科の独自要求については「職名改正に伴う諸矛盾の解消」「予科の構内職場への投入に伴う教導手当」的なの要求と専門職の確保等について分科としての意志統一が行われた。

7月1日(日)
じゃがいも掘り
大会に参加しよう!

9時30分
千葉駅正面
旧電務区前

無料バス
手配
これ大型だよ!

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!



6月24日、カーターが来日した。この日、首都圏・羽田はもとより高速道路もストップさせ、霞ヶ関周辺は完全に一般車・人を閉め出した「戒厳令」となった。われわれは、このような「サミット」と「サミット体制」の超反動的な本質をしっかりとみぬき、弾劾してゆかなければならない。

(6) 「石油危機」の大宣伝は
世界戦争と原爆への道
この世の終末であるかのように「石

シリーズ 反動の「サミット」と八〇年代労働運動のゆくえ ⑥

油危機」が叫ばれ、だから石油を節約せよ、「原子力開発」をせよと声高に宣伝がなされている。しかし、これは全くのペテンである。

従来、列強は中東の石油産出諸国を全く踏みつけにして、産油国の抵抗に對してはイスラエルのような軍事基地国家を足場にサウジ、イラン等へテコ入れをし、武力介入をもって押さえつけ石油を確保してきたのである。しかし、イラン革命や、昨年一二月以降のOPEC(石油産出国機構)の抵抗等に会い、アメリカ系超大資本による石油の独占的需給関係は大きく崩れ去りつつあり、中東石油(日本にとっては大釣魚台周辺、日韓大陸棚石油をも含む)をめぐる争奪戦は、新たな、より鋭い

形での世界的規模の戦争として危機を深めている。

「原子力開発」がこの「石油危機」を救うというのはさらなるペテンである。原子力発電それ自体が石油を多量に消費するばかりか、「燃えかす」である「死の灰」は、一基につき広島型原爆数十発分に相当し、アメリカの「スリーマイル島事故」のような炉心熔融で外に排出されれば、周辺百キロ四方は人が住めなくなるという危険なものである。さらに何よりも重要なことは、この「灰」の主体はプルトニウム類にもたらずものは、「死の灰」か「原爆」以外ではないのである。

「省エネ」などと称して危機感をあおりたて、権力者は石油強奪戦争や原爆の生産へ民衆をかりたてようとしているのである。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!